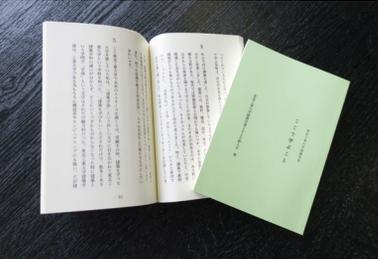




## Pick Up News

建築学部通信の編集を石井敏副学長・学部長より引き継ぎ、今月号より私、船木(学科長)が編集を担当させていただくことになりました。創刊以来、石井先生が毎月休まず編集を務め、学科の情報を発信し続けてくださったことに、心より感謝申し上げます。今後はその思いを引き継ぎ、これまで以上に親しみやすく、皆さんにとって有益な内容をお届けしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、ゴールデンウィークも明け、前期もいよいよ折り返し地点に差しかかりました。1年生は大学生活にも少しずつ慣れてきた頃ではないでしょうか。4年生は就職活動や進路選択が本格化しています。今年度も建設・建築業界においては就職内定の早期選考がますます一般化しています。2・3年生の皆さんにとっても、進路や将来の目標について早めに意識を持ち、行動に移していくことが重要な時期です。建築学科では、大学院進学も進路の一つとして定着してきました。特に春季推薦(4年生5月出願)での進学の場合は奨学金の給付があるため、実質的な学費負担が国公立大学よりも軽くなるケースもあります。現在、学科の大学院進学率は約2割ですが、今後は他大学並みの3割を目指しています。6年間かけて建築を深く学ぶという選択肢は、今後ますます一般的なものとなるでしょう。大学院でしか得られない職種や進路、また他大学の大学院生と競いながら目指す設計職など、進学することで開ける道も数多くあります。学科には大学院に進学した先輩も多く在籍していますので、実際の声を聞く機会も活用してください。建築学科公式Instagramでは、在学生サポーターによる投稿がスタートしています。学生ならではの目線で、学科の雰囲気や授業、キャンパスライフの様子などを楽しく発信していきます。ぜひ気軽にフォローして、日々の学びのヒントや、やる気アップにつなげてください。



今年も新入生の声を集めた「ここで学ぶこと」を発刊しました。それぞれ、ここで学に至った経緯も思いもさまざま。そのような多様な、個性あふれる161人がいるからこそ大学生活は楽しくもあり、また建築学科の魅力にもなります。入学したときの思いや気持ちをお忘れずに4年間頑張ってください。  
建築学部長(副学長)・石井敏

私は大学のスローガン「未来のエスキースを描く。」について自分の将来を考えて見ました。私の将来の夢は建築士になるという大まかな夢でした。しかし、本講義を通して、東北工業大学で学ぶことで私は地域に貢献出来る建築士になりたいと強く思うようになりました。地域の未来のために新しい技術や知識を身につける学習をしていきたいと思ひます。さらに建築というものに対する価値観や見方をも養っていきたくひです。これから4年間この夢を叶えるために東北工業大学で学んでいきたくひです。

私は東北地方で建築を学ぶにあたって学習する環境が整っている貴学に入学しました。今回の講義および資料を通して建築は未来を支えるとともに人々に希望を与えるものだと感じました。当たり前のように見ている身の回りの建物の存在意義など、改めて考える機会となりとても勉強になりました。縁を大切にしながら過ごしていくことでよりよい結果に繋がっていくことや感謝することの大切さなど学ぶことができました。私ももの見方、捉え方を改めて感謝することを忘れずに日々過ごしていきたいと感じました。私は将来1級建築士になることを目指しています。そのため在学中は資格の学習に力を入れたいと考えています。

今回の講義を通して東北工業大学に入学できて嬉しい気持ちと入学してから何をすることが大切だということを変更して感じました。東北工業大学は建築学部を作る上での歴史が深く、他の大学と比べて建築学に力が入っていると感じました。そのため、建築の様々な分野を幅広く、深く学ぶことができるのだと思ひました。研究室も充実していることで、あまり得意ではない分野でも異なる分野に興味を持てる可能性があり、どの分野を学んでいくかの選択肢が多く、学生全員が興味のある分野を見つけることができると知りました。ですが、高校とは違い受動的ではなく能動的に学んでいかないと興味のある分野を見つけていくことが出来なと思ひました。仙台は都市部と郊外部があり、被災地でもあり、山や海に囲まれていて、建築を学ぶ上でのいい環境が揃っていると思うので、いい学びの環境の中で自分に合った分野を見つけ、この東北工業大学で沢山のことを身につけていこうと思ひました。



**Please follow us!**  
在学生が学生目線で情報発信してくれています。5/15現在のフォロワーは866。1,000を目指しています。よろしくお願ひします。

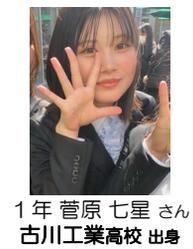
**Pick Up Lab.** 有川研究室は、目で見て手に触れる「材料」をベースとしながら、建築生産を取り巻く社会のしくみを学び、いいものを賢く使っていくための知恵を探索する「何でも屋」の研究室です。建築の川上から川下。建物を構成する木材などの素材から、設計・施工、維持管理、解体後のリサイクルに至るまで、建築のホールライフ(Whole-life)を研究対象としています。建物の寿命は、構造的側面、計画的側面、経済的側面、そして法律的側面等々、実に多く要因が関係します。「いいものをつくって、しっかりと手入れをし、愛着をもって長く大切に使う」建物が豊かに歳を重ねるとはどういうことか一緒に考えてみませんか。



恒例の森林・製材・プレカット研修



研究室の古時計



1年 菅原 七星 さん  
古川工業高校 出身

## Pick Up Student

大学に入学し、約一ヶ月が過ぎました。少しずつ大学生活にも慣れ、友人たちと毎日楽しく過ごしています。私は、工業高校出身で、高校から建築を学んできたため、専門科目は無理なく理解でき、安心して授業に臨んでいます。大学では、新たな知識にも触れ、さらに建築に興味が増えました。特に、製図の授業は、高校時代から好きだったこともあり、難しさを感じる場面もありますが、楽しく取り組んでいます。今後は二級建築士をはじめ、さまざまな資格取得に挑戦したいと考えています。これからも大学での学びを大切にしつつ、有意義な大学生活を送りたいです。



2年 川村 一颯 さん  
盛岡南高校 出身

## Pick Up Student

大学生活が始まり、あっという間に1年が経ちました。振り返って印象に残っているのはサークル活動です。私は仙台建築都市学生会議という、卒業設計展の運営を行うインカレサークルに所属し、全国の建築模型を実際に見ることができ、大きな刺激を受けました。勉強面では、成績優秀者に選ばれたのが嬉しかったので、今年も選ばれるよう努力しています。最近は設計の授業がとても楽しく、夜遅くまでテラポに残って課題に取り組む日々が続いています。